

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人文京アカデミー	
施 設 名	響きの森文京公会堂（通称：文京シビックホール）	
助成対象活動名	人材養成事業	
内定額（総額）	1,097	（千円）
公 演 事 業		（千円）
人材養成事業	1,097	（千円）
普及啓発事業		（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	吹奏楽奏者養成プログラム ＜吹奏楽クリニック＞	7月9日～7月31日	シエナ・ウインド・オーケストラの団員による演奏指導。3回×10校で実施。	目標値	100名
		文京区立中学校10校		実績値	120名
1	吹奏楽奏者養成プログラム ＜シエナ de アン・コン!＞	12月26日	シエナ・ウインド・オーケストラの団員が審査講評するアンサンプル・コンテスト。	目標値	参加者100名 入場者100名
		シビックホール内施設		実績値	参加者146名 入場者402名
1	吹奏楽奏者養成プログラム ＜吹奏楽3upプロジェクト＞	11月11日	吹奏楽に興味を持つ幅広い年代の方が、無料で楽しめる吹奏楽イベント。	目標値	100名
		シビックホール内施設		実績値	85名
2	バレエ制作アートマネジメント講座A	9月20日～9月28日	牧阿佐美バレエ団関係者等による舞台装置、美術、照明、公演の企画制作等の見学や体験を含む8講座。	目標値	160名
		シビックホール及びホール内施設		実績値	178名
2	バレエ制作アートマネジメント講座B	12月3日～12月14日	牧阿佐美バレエ団関係者等による舞台装置、美術、照明、公演の企画制作等の見学や体験を含む6講座。	目標値	100名
		シビックホール及び跡見学園教室		実績値	109名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	660
				実績値	1,040

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

1 吹奏楽奏者養成プログラム

事業提携するシエナ・ウインド・オーケストラと協力し、吹奏楽演奏者養成を目的とした事業を計画通り実施した。

■吹奏楽クリニック

各校の希望を事前調査し、シエナ団員が各校に出向きポイントを絞った指導を行った。

■シエナdeアン・コン！

吹奏楽の催事会場として認知されている当ホールで、シエナ団員によるクリニック付きコンテストを小学校から大学・一般までの4部門で実施した。

■吹奏楽3upプロジェクト

吹奏楽関連の体験型無料イベントとして実施した。演奏指導、楽器相談等、初心者から熟練者まで対応できる6つのコーナーを設けた。

2 バレエ制作アートマネジメント講座

全幕物のバレエ公演ができ、牧阿佐美バレエ団と事業提携する当ホールの強みを活かし、バレエを切り口にした講座を実施した。バレエ団の公演にあわせカリキュラムを組み、仕込みから本番までを実際に見学・体験できる内容とした。

舞台芸術に関心のある学生や舞台関係の仕事を希望する人をターゲットにした講座と、区内の跡見学園女子大学の準カリキュラムとしての講座を実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

芸術団体と提携し地域に密着したホールとして、芸術団体が擁する「プロ」と地域の「人」を結びつける役割を果たした。学校については日頃の連携を活かし、学校の要望を確認しながら事業を進めた。

また、助成を得たことで、参加者の経済的な負担を軽減でき、学生等、これから文化芸術に携わる人の意欲向上やスキルアップに繋がった。

1 シビックホール 吹奏楽奏者養成プログラム

プロから学ぶ機会を提供することで、音楽との繋がりを強めるとともに、演奏技術の向上に寄与した。

2 シビックホール バレエ制作アートマネジメント講座

普段は見ることができない制作現場を体験し学ぶことで、今後、舞台制作の分野で働くきっかけとなることを目標とした。当ホールでは今後も多くのバレエ公演が行われ、バレエの普及啓発的役割を担うことを目指す。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

人材養成事業を通じて、プロの演奏家や舞台制作関係者と地域の人を結びつけることができた。参加者はプロの指導によって演奏技術の向上や知識の習得が図られただけでなく、プロの意気込みを実感していた。

1 吹奏楽奏者養成プログラム

■吹奏楽クリニック

顧問が一人で様々な楽器の取扱いや演奏技術を指導することは難しいという学校側の意見を踏まえ、各校の希望に即したパート別クリニック（1回2時間）を3回ずつ実施した。

■シエナdeアン・コン！

シエナ団員による事前レッスン（1回2時間）が評価され、定員を上回る応募があった。提出音源による予選は行わず、様々な団体に機会を提供している。コンテストでは、各団体の演奏直後に審査員が講評を行うとともに、各部門終了後には採点結果を公表した。出場団体は、事前レッスンとコンテストの講評により、2段階でレベルアップを図ることができる。また、来場者からも演奏と直後の講評は参考になるとの意見が多くあった。

■吹奏楽3upプロジェクト

楽器を手にとって（Pick up）、楽器を目覚めさせて（Wake up）、演奏を進歩させよう！（Level up）という3つの「up」を目指す演奏者養成プログラムとして平成30年度から開始した。個別クリニックのほか、楽器を吹いてみる等の体験コーナーが好評で、来場者も壮年層が多く、手応えがあった。来場者アンケートでも5点満点中4.6点と高得点だった。

2 バレエ制作アートマネジメント講座

一般対象の講座A、跡見学園女子大学学生対象の講座Bともに定員を上回る応募があった。特に講座Aでは、ゲネプロ見学を除く定員枠延べ140人に延べ792人もの応募があった。講座の趣旨から学生や舞台芸術関係従事者を優先したが、鑑賞するために舞台芸術を詳しく知りたいという需要があることが分かった。

実際の公演制作過程を、専門家や現場担当者の解説を交えて学び、体験する講座は、アンケートでも講座Aでは満足度4.6点、講座Bでは4.8点（ともに5点満点）と高評価だった。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1 吹奏楽奏者養成プログラム

■吹奏楽クリニック

シエナ団員による指導について各校に事前調査を行い、希望に添うように調整し講師を派遣した。各校とも8月上旬開催の吹奏楽コンクール出場に向けてレベルアップを図った。

実施期間：7月9日～7月31日の内の11日

実施場所：区立中学校10校（1校当たり3回）

実績：実施回数は延べ30回、参加者は延べ120人

■シエナdeアン・コン！

1月開催の東京都のアンサンブルコンテストに向け、模擬コンテストとして活用できるよう演奏時間や編成等、本番に近い条件とした。審査員はコンクール等で審査経験のあるシエナ団員と吹奏楽曲を手掛ける作曲家に依頼した。

また参加団体には、事前にシエナ団員による演奏指導を付け、演奏技術の向上を図った。

[アンサンブルコンテスト]

実施日：12月26日 10：30～20：20

小学校の部（8団体）、中学校の部（2団体）、高等学校の部（8団体）、大学・一般の部（4団体）

開催場所：シビックホール小ホール

■吹奏楽3upプロジェクト

吹奏楽に興味を持つ人が、気軽に無料参加できるイベントとして、シビックセンター地下1階の施設を貸切で開催した。

実施日：11月11日 11：00～17：00

参加者数：延べ85人

開催場所：シビックホール練習室エリア他

2 バレエ制作アートマネジメント講座

実際の公演にあわせ、バレエ公演の基礎知識や企画制作過程の座学、仕込の現場見学と体験、ゲネプロ見学を実施した。また2講座とも、全回参加希望する人を優先したが、希望する回（内容）だけの受講も受け付け、見学や体験等限られた定員枠のある講座を有効に提供した。

■講座A（一般向け：全8回）

実施時期：9月20日～28日

講座の題材：「白鳥の湖」（公演日：9月29日・30日/仕込み等：27日・28日）

■講座B（跡見学園女子大学学生向け：全6回）

実施時期：12月3日～14日

講座の題材：「くるみ割り人形」（公演日：12月15日・16日/仕込み等：13日・14日）

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1 吹奏楽奏者養成プログラム

3事業とも、事業提携するシエナ・ウインド・オーケストラの人材やノウハウを活かし実施した。

■吹奏楽クリニック

事前に学校側のニーズを把握し調整した上でシエナの団員を中学校に派遣する等、区立中学校との日頃からの連携を活かし、学校側の要望や生徒のレベルにあわせた指導を行うことができた。また、生徒もプロの演奏家と接することで、演奏技術の向上や音楽を継続する動機付けになった。

■シエナdeアン・コン!

吹奏楽のコンテスト等が行われる地域特性を活かし、アンサンブルを組む吹奏楽演奏者に発表の場とスキルアップの機会を提供した。

■吹奏楽3upプロジェクト

吹奏楽部等で楽器の演奏経験がある人は少ない。現在は楽器演奏から離れていた人がシエナの定期演奏会でオーケストラと一緒に演奏するイメージで企画し、そのために役立つ演奏指導等のプログラムを提供した。コンサートの会場となるホールとオーケストラが連携・協力し、演奏を楽しむ人を掘り起こし、育成する事業となった。

2 バレエ制作アートマネジメント講座

バレエ公演の舞台関係者（舞台監督、照明スタッフ、衣裳担当者、バレエ・ミストレス、ダンサー等）を講師に迎え、公演仕込みにあわせて講座を実施した。舞台設営の現場を見学・体験させ、舞台機構を説明する講座を安全かつ効果的に進めるためには、施設の管理運営に携わる劇場側スタッフとバレエ団の舞台関係者の連携が不可欠である。牧阿佐美バレエ団との事業提携により、何度も公演を重ねた結果形成された連携と信頼関係に加え、全幕物の公演ができる舞台機構を活かしたシビックホールならではの人材養成事業である。

更に、2講座実施した内の1つは、区内大学との連携を活かし、大学の準カリキュラムとして学生の参加を募り、座学部分は大学を会場に実施した。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

1 吹奏楽奏者養成プログラム

吹奏楽クリニック、シエナdeアン・コン！、吹奏楽3upプロジェクトの3つの人材養成プログラムを関連させて実施したことにより、小学生から成人まで、幅広い世代の吹奏楽愛好者に対し、演奏する機会と演奏技術を向上させる機会を提供でき、実演芸術の振興及び地域の文化芸術の発展に寄与した。

2 バレエ制作アートマネジメント講座

舞台芸術に携わる人材養成事業としてカリキュラムを組み受講者を募集した。舞台芸術に関心はあるものの制作側の体験がほとんどない受講者が多く、人材養成の入門編として有意義な講座となった。また今回実施した入門編は、舞台芸術を深く理解する鑑賞者の育成にも有意義であり、舞台芸術活動の活性化に寄与するものである。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団では事業・組織強化のため経営計画を策定し、その確実な遂行のため、毎年、財団全体で進捗状況を確認し達成度を評価している。結果を理事会、評議員会で報告し、意見聴取の上、次年度の事業計画に反映している。このことにより計画事業は継続的に検証、改善され、機能強化が図られている。

今回の助成事業については経営計画に基づいた事業であり、助成を得て実施した結果、ホールの機能強化につながった。

【経営計画】「区民ニーズや社会環境の変化に応じた創造的な事業の展開」

- 1) さまざまな世代の方が参加できる、多様なプログラムや伝統芸能などを含め、新たな事業を展開する。
- 2) 区民が気軽に文化芸術に参加するきっかけづくりを継続的に行う。

「吹奏楽演奏者養成プロジェクト」は参加型事業として、幅広い年代の参加者を得た。中でも「吹奏楽3upプロジェクト」は吹奏楽愛好者の裾野拡大を目的とした新規事業であり、助成を得たことで無料で誰でも参加できるイベントとして地域の人々が気軽に参加できる事業となった。

【経営計画】「提携団体との連携による事業の一層の充実と深化」

- 1) これまでの鑑賞事業やアウトリーチ事業のほか、パレエ・エデュケーション・プログラム等、提携団体ならではの密度の濃い通年プログラムを実施する。

助成事業は、全て当財団が事業提携する芸術団体との協力のもと行われた事業であり、提携団体の協力により、質の高いプログラムが実現し地域の人と文化芸術をつなぐ事業となった。

【経営計画】「経営基盤の強化、安定化」

- 1) 財団の事業目的は公益の実現であり、公益目的事業を中心に事業展開すると同時に、効率的な運営に努め、その結果として余剰財源が生じた場合は、事業を通じ、広く地域社会に還元する。

助成を得ることは経営基盤の強化、安定化に不可欠である。今回の助成により経営的な裏付けを得て無料または廉価で提供でき、当財団が持つ資源を広く地域に還元できた。